



加古だより

加古小学校通信
令和4年4月号
No.3 (276号)

加古小のみなさんが、地域の人にできること

～よりよい加古小の教育が、よりよい加古地区をつくる～

校長 吉田 博明

<こんなに守られてるんだ>

毎日の登下校。雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も、よく頑張っています。毎朝、みなさんが元気に登校してきてくれるのを楽しみにしています。

その時、一緒に歩いてきてくれる地域の方々がたくさんいらっしゃいます。お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんだけでなく、地域の人たちも、みなさんの安全のために、毎朝、一緒に歩いてきてくださっています。中には、「あの車、いつもスピード出して走っとるから、この前止めて怒ったんや。そしたらあんまりこの道通らんようになった。」と話してくださる方もいらっしゃいました。そして、「警察にも言うといた。」と話されました。みなさんが歩いている間、たくさんの方が関わってくださり、また守ってくださっているのですね。

<駒田先生も思わずびっくり！>

いつも学期の初めに登校指導を行います。先日、登校指導をした駒田先生が、学校前で挨拶をするみなさんの声が小さいのにびっくり！「いつもこんなに小さい声なのですか？」と質問されました。朝はなかなか調子が出ないのか、声が小さいみなさん。授業や教室の中では、とても大きな声で挨拶ができるみなさんなので、そのギャップにびっくりされたようです。その話を聞きながら、その原因は何か考えました。教室ではできているのに、学校外ではできない。それは挨拶をやらされているからだ、と考えました。本来、挨拶は、目の前の人に「よろしく」や「元気？」など、相手を思いやる気持ちを伝えるために行うものです。だから挨拶してもらおうと、された方はとても気持ちが温かくなるのですね。

<地域の人たちへ、みなさんができること>

毎日毎日みなさんのことを思ってくれている地域の方々。たくさんの人たちに見守られながら、みなさんは育っています。まさに地域の方々によって育ててもらっているのだと思います。そんな地域の方々へ、みなさんができることは何だろう？「子どもは地域の宝」と言います。「学校がなくなったら地域が廃れる」とも言います。不思議だけど、子どもがいると、周りは明るく元気になるんですね。みなさんは、ここに存在する（いる）だけで、地域の人たちに元気を与えてくれているのです。もし、そんなみんなから、元気な明るい声で挨拶してもらえたら、どれだけうれしいだろう。みなさんは存在だけでなく、挨拶でも地域の人たちを「幸せにできる」と思います。見守ってもらっているお返しに、とびっきり元気な挨拶で、地域の人たちに「幸せ」をプレゼントしてみましょ！